

事務事業総点検1次評価（令和2年度実績）結果について

1. 1次評価の目的

各事業所管課が当事者意識を持ち、実施する事務事業について、PDCAサイクルを回し、所管課が自ら事業を見直し、改善していくためのチェック機能である。

2. 1次評価対象事業

原則、市が実施する予算を伴う全事業を対象とする。ただし、職員人件費や他会計への繰出金など、事務事業総点検に適さない事業は対象外とし、1,464事業について1次評価を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべて実施できなかった事業が78事業（イベントへの補助金交付事業など）あり、これらの事業は評価対象外とした。

3. 1次評価結果

評価区分	内容	H30	R1	R2
		事業数 (構成比)	事業数 (構成比)	事業数 (構成比)
S:期待を上回る	・目標以上の成果があがっている。	133 (8.6%)	127 (8.4%)	126 (8.6%)
A:期待通り	・事業の目的達成に向けて、成果が目標通り出ている。 ・活動実績に見合った十分な成果が出ている。 ・成果の更なる向上又は適正水準の維持が期待できる。	1,272 (82.0%)	1,220 (81.2%)	1,211 (82.7%)
B:期待を下回る	・目標達成に向けて、ある程度成果は出ているが、目標をやや下回っている。 ・活動実績に対する成果がやや低い。 ・成果達成のため、事業内容等の改善が必要	125 (8.0%)	119 (7.9%)	106 (7.2%)
C:期待を大きく下回る	・目的達成に向けた成果が出ていない。 ・事業実施の効果が認められない。 ・実施方法等の抜本的な見直しが求められる。 ・今後も成果が見込めず、事業自体の見直しが必要	22 (1.4%)	37 (2.5%)	21 (1.4%)
小計		1,516	1,503	1,464
ー:実施していない	・実施する必要がなくなった又は必要がなかった。 ・天候不良等により実施が不可能となった。	18	20	87 (78含む)
合計		1,534	1,523	1,551

4. 新型コロナウイルス感染症の影響への対応

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の一部が実施できなくなった場合や、例年通りの実施が出来なかった場合に対応するために、各課においては暫定的な対応として指標の変更や目標値を変更するなどし、その成果を評価した。

（指標を変更した事業例）

No.	所管課	事業名	R1の指標	R2の指標
338	日本平動物園	教育普及事業	幼児動物教室の参加者数等	幼児動物教室の理解度
938	産業振興課	「ホビーのまち静岡」推進事業	静岡ホビースクエア来場者数等	「ホビーのまち静岡」の認知度

5. 昨年度の評価結果を踏まえ、取組内容等を改善した主な事業

令和元年度と比べ、1次評価結果等が改善された主な事業は次のとおり。

No.	所管課	事業名	年度	指標名	目標値	実績値	1次評価	改善した点等
481	健康づくり推進課	栄養指導改善経費	R1	食生活改善推進員の育成人数	20人	16人	B	講座開催について広報紙に特集で掲載できたこと等により定員を超える申し込みがあった。また、申し込み後の辞退理由を踏まえ、対象者の決定方法を工夫した結果、育成人数が増加した。
			R2		17人	23人	S	
1212	緑地政策課	生産緑地地区計画策定事業	R1	生産緑地地区の都市計画決定箇所数	500箇所	75箇所	C	良好な都市景観の形成に向けより良い手段を模索する中で、法改正により生産緑地の貸借が可能となったことが十分に周知されておらず、荒廃地となっていることに着目し、農業委員会事務局と連携し、荒廃地指導に取り組んだ。
			R2		6件	15件	S	

6. 総括

○評価対象である1,464事業のうち、91.3%に当たる1,337事業がS又はA評価であった。例年多くの事業がA評価以上となることから、安易に達成できる指標・目標値ではなく、目指す姿からバックキャストし、適正な指標・目標値を設定するよう、引き続き各課へ働きかけていく。

○新型コロナウイルス感染症の影響として、高山・市民の森などの屋外施設においては来場者数が増加しており、従前通りの指標で評価した事業もあったが、暫定的に来場者数等の「量」に着目した指標から、満足度の「質」に着目した指標へ変更し評価した事業もあった。コロナによる影響は施設の特성에依りて様々であることから、今後コロナ下におけるより適正な評価手法等について研究し、各課へ周知していく。